



PRESS RELEASE

大学記者クラブ加盟各社 御中

平成21年 3月17日
岡山大学

東アジアにおける有用植物遺伝資源研究拠点の構築

概要：本事業は、日本学術振興会の「アジア研究教育拠点事業」に採択され、平成21年度より5年間にわたって行われます。概要は下記の通りです。

植物遺伝資源は、人類や地球環境の未来にとって必須の潜在的機能を保有する貴重な資源です。ところが、近年では戦略的資源として国家間移動が厳しく制限されるようになり、資源小国日本にとっては重大な問題となっています。中国雲南省は照葉樹林帯に分布する植物資源の宝庫であり、わが国の生物資源戦略において最も重要な地域の一つであります。そこで、世界的に有名な中国科学院昆明植物研究所との研究交流を発展・加速化させ、多様な植物資源の調査・開発研究のための有用植物遺伝資源研究拠点を諸外国に先駆けて構築し、安全・安心な食料生産のための研究拠点へと発展させたいと考えています。

中国科学院昆明植物研究所は豊富でユニークな植物資源を背景として基礎・応用研究を展開している世界的な研究機関であります。岡山大学は、日本の大学・研究機関として唯一の「大学間交流協定」を同研究所と締結し、10年以上にわたって研究教育交流を行ってきました。本事業の概略は下記の通りです。

研究組織：本学自然科学研究科バイオサイエンス専攻をコアとし、国内4機関が連携。

共同研究：雲南省及びその周辺地域において、ムギ類、イネ、ダイズ、ウリ科作物、タロイモ及び野生植物のフィールド調査を共同で行い、貴重な遺伝資源（種子など）を日本に導入します。また、分子遺伝学、分子生物学などの先端的技術を駆使して、遺伝資源の評価・開発研究及び基礎研究を展開し、世界に情報発信します。

研究交流：国際シンポジウム、セミナーなどを両国で定期的開催し、共同研究について議論するとともに、研究者交流を促進して拠点としての実質化をめざします。

若手研究者の育成：相互派遣（長・短期）の促進、現地調査、国際シンポジウム、セミナーなどへの若手研究者の積極的関与により、次世代を担う人材を育成する。

＜お問い合わせ＞

岡山大学 自然科学研究科 ・ 加藤鎌司

（電話番号） 086-251-8323

（FAX番号） 086-251-8388